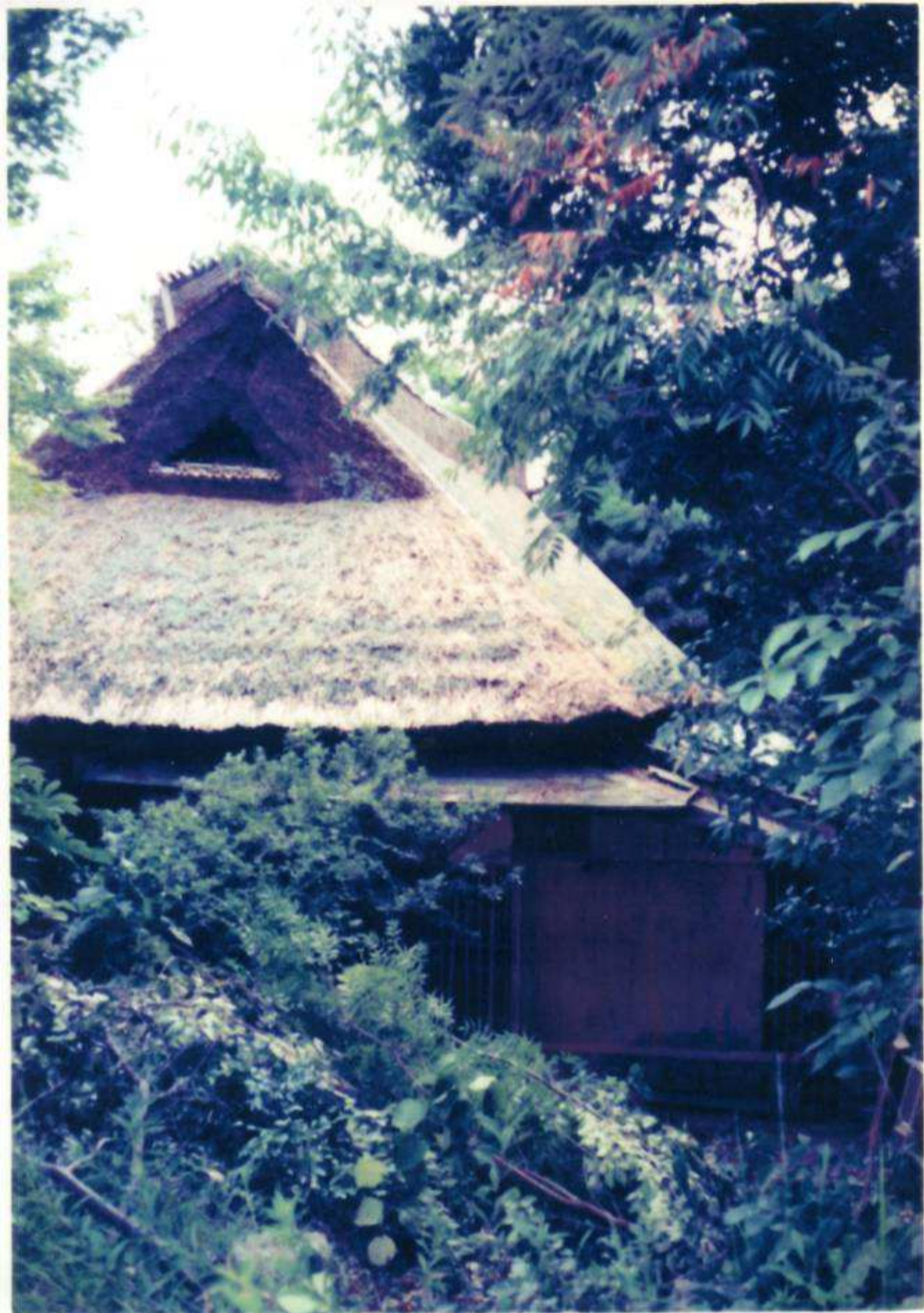


一粒荘



この「一粒荘」の建物は、現在の四谷通りが区画整理により拡張されるときに、取り壊されることになったものを水野鐘三氏が譲り受けて昭和8年に風巻谷西側の景勝地に移築した。

現在の東山公園一帯の山林は、もとは官有地で、日露戦争のころに地元払い下げになったが、村ではそれを買う金がなくて、丸山の大地主水野鐘三氏の持ち山になっていた。

300年以上も前の江戸時代中期の建物で、徳川時代には庄屋として使われたもので、萱葺き平屋建て181平方メートル。

8畳の床の間に6畳の納戸、13.5畳の居間には囲炉裏が掘られていた。

広い土間には鷹狩りをしたときの村役人の集会の場であったと云われている。今では想像も出来ないが当時は御殿山（現在の東山公園内）で鷹狩りや猪狩りが行われていた。

ここに移築する際には、県の特別の計らいでほぼ原型のまま移築することが出来たが、屋根の萱葺きは大変な仕事で、数名の専門職人が泊り掛けでおこなった。

建具や囲炉裏は、岐阜県数河町の山村佐藤兵衛より取り寄せたものである。

この一粒荘の名は、敷地内にある古窯を見学に来られた東京帝大（当時）の黒板勝美博士が一粒万倍の故事より命名された。

さらに、一粒荘内の茶席は元知事の田中広太郎氏が「東求庵」と命名され、離れも元知事の松井茂氏が「養春亭」と命名された。

「我が庵は膝入るゝばかり狭まけれど月と二人は住みよかりけり」

という掲額のあった「容膝庵」の席は2畳ほどであった。この「容膝庵」は入船山（現在の千種区園山町）に石橋羅窓の建てた七つ茶屋の一つである。

東山に移築する前は千種区丘上町にあったが、昭和30年に一粒荘の東に復旧移築された。

一粒荘には、歴代の愛知県知事、名古屋市長はもちろん、昭和16年に全国消防協会総裁の職に就いておられた梨本宮守正王殿下、戦時中の昭和18年には東海軍司令部司令官の賀陽宮宗憲王殿下が妃殿下を同伴して来訪された。この時、水野鐘三氏は全国消防協会の理事であった。

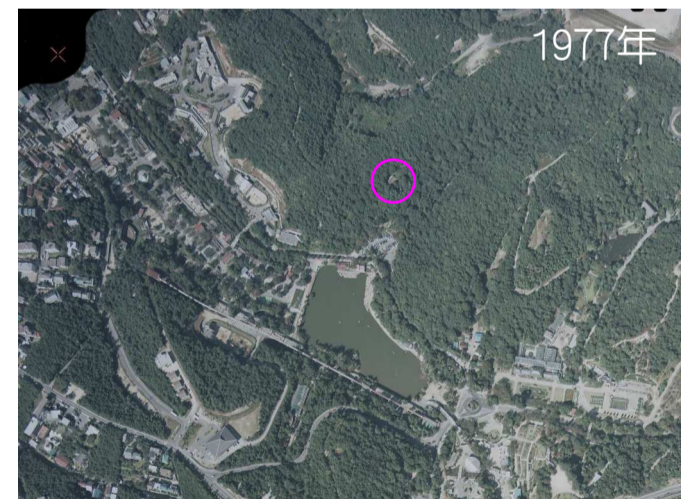
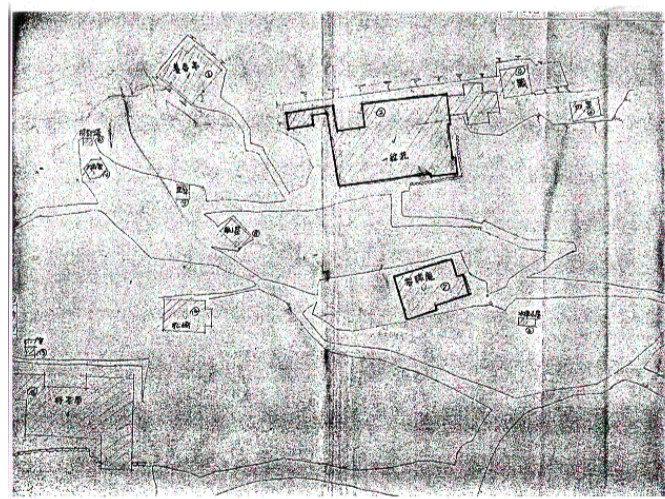
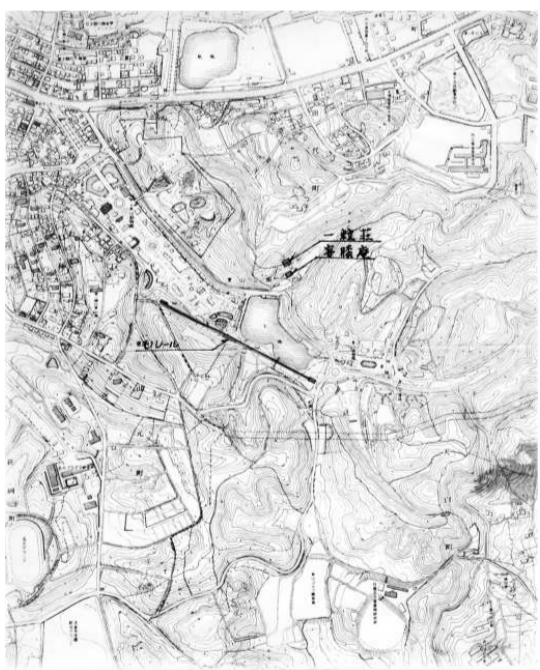
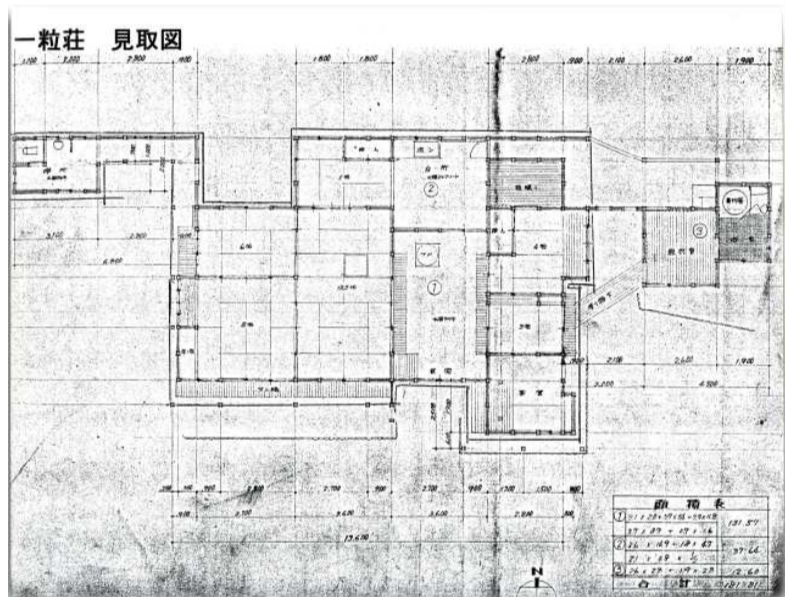
さらに、永平寺の熊沢泰禅師は幾度となく訪れて宿泊された。

御園座で歌舞伎公演の折には、先代市川歌右工門、尾上松緑、中村勘三郎、松本幸四郎らが訪れて釜をたてていた。

朝日茶会の席としても使用され、御殿山から昇る月はすばらしく、春の桜に夏の新緑、秋の紅葉、冬は雪見と四季折々の風情を添えていた。茶人の多い名古屋の茶会の場として諸種の茶会や句会が開かれた。

昭和24年9月に、映画「待つ居た象」の撮影が東山動物園で行われた際、俳優の横山エンタツや柳家金語桜らの宿泊所としても使用された。大戦時に処分を免れて生き残った象が全国的に有名になり「象列車」が仕立てられた時代である。

このように名古屋市内では、数少ない貴重な建物であったが、東山動植物園の発展と近辺の開発に併せて、昭和46年に子息の水野民也氏から名古屋市に寄贈され、その後、老朽化のため10年後の昭和56年に取り壊された。



出典：国土地理院の空中写真

資料提供：東山遊園（株）ほか

